

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.
113
2016.7.23



華南三彩刻花文水注

2016
テーマ展示Ⅱ

いにしえの
美

大分市
歴史資料館

館蔵古美術

【会期】

平成28年7月23日(土)
～9月25日(日)

いにしへの美

館蔵古美術

テーマ展示 2016 II
大分市歴史資料館
テーマ展示No.95

【会期】平成28年7月23日(土)
~9月25日(日)

当館が開館以来収集してきたさまざまな資料の中には、古美術品と呼ばれるような美的にすぐれたものがあります。本展示では、それらの中から特に美的造形や価値の高いものを精選し紹介します。あわせて、それらが作られた歴史的背景なども紹介します。

富と権力の象徴 陶磁器

古美術品としてまず思いつくものの一つに陶磁器があります。中でも茶の湯に関わるものは貴重とされ、特に有名な茶人や戦国武将・大名などが所持した茶道具などは、名物や名品として今に伝えられています。こうした名物・名品の多くは、15世紀に室町幕府が唐物と呼ばれた茶器を中心とする中国の宋・元時代の美術工芸品を、室内の飾りへと転用し珍重したことにはじまるとされています。以来、名だたる茶道具などは、富と権力の象徴として考えられるようになったといえます。



知識と教養 書画

桃山時代の茶の湯の隆盛にともない、名の知れた古人の筆跡「古筆」を手鑑や掛幅に改装して茶席などで鑑賞することが盛んになりました。古筆の鑑賞や鑑定は、武家にとっての一つの教養と考えられ、またそうした古筆や和歌・文学など素養をもとに自ら書や画を嗜むこともありました。ここでは大友氏22代義統の書や府内藩大給松平家6代藩主近備の書画などを紹介します。



表紙紹介 新収蔵品

華南三彩刻花文水注は、16世紀後半、日本に盛んに輸入された華南三彩陶器の一器種で、中国の明時代に福建省漳州窯周辺で生産されたものと考えられています。同類の水注は、大友氏館跡や中世大友府内町跡から破片として多く出土していますが、完形品では阿蘇大宮司の館とされる浜の館跡(熊本県)から出土した重要文化財に指定されているものが知られているのみです。本資料はカンボジアからの収集品ではありますが、その全体を知ることができる大変貴重な資料であり、全体に釉の剥落もなく非常に状態の良いものです。

源氏絵と錦絵 絵画

当館が所蔵する絵画に源氏絵や錦絵があります。源氏絵は「源氏物語」54帖から物語の場面を選び絵画化したもので、特に桃山時代に多く制作されたといわれています。それらは同時代の貴族や大名たちの古典教養の証や自己を権威付ける道具として賞玩されたと考えられています。錦絵は色鮮やかな多色刷りの木版画で、風景画、美人画、役者絵のほか、最新の風俗や話題を題材にした開化絵や世相を映した戦争絵も描かれています。大衆メディアの一つとして江戸時代から明治30年代まで庶民に広く愛された絵画作品であったといえます。



漆器と南蛮漆器 漆器

漆器は縄文時代から作り続けられている日本を代表する工芸品です。漆工技術は江戸時代に極点まで進歩し、この時代の大家の婚礼用具や調度品にはその技巧の粋をみることができます。一方、桃山時代には日本に訪れた宣教師や西洋人の求めに応じ、蒔絵・螺鈿を用いて幾何学文様・花鳥絵など独特な意匠を施した豪華絢爛な祭儀具や筆筒などの漆器も制作されています。「南蛮漆器」と呼ばれているこれらは、江戸時代に鎖国が行われるまで大量に輸出され続けたことから、Japanは日本を意味するとともに漆器を表す語ともなったといわれています。

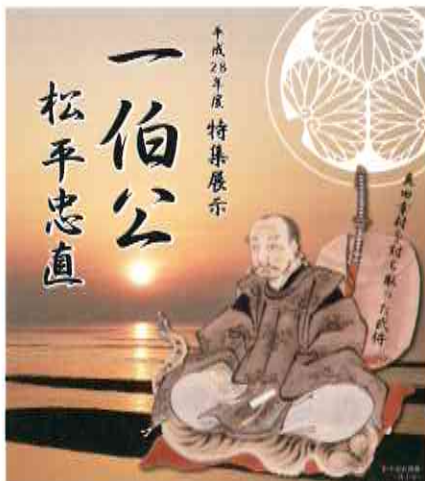


刀と鐔 刀剣

日本の刀剣(日本刀)は、慶長年代(1596~1614年)以前に制作された「古刀」と、それ以降の「新刀」とに大きく分けられます。当館が所蔵する刀剣は、府内藩の刀工富田家により制作されたもので、上記の新刀に分類できます。富田家は府内城下鍛冶屋町に住み、代々府内藩お抱えの刀工を務め、刀剣のほかに鐔なども手掛けています。また、当館が所蔵する刀装具に江戸時代に流行した南蛮鐔があります。西洋風の唐草や南蛮船・クルス文などの図柄を意匠とした鐔です。



平成28年度 特集展示「一伯公 松平忠直」



現在、NHK大河ドラマ「真田丸」が放送され戦国武将ブームにまた火をつけていますが、この真田丸の主人公・真田幸村(信繁)を討ち取った武将として知られているのが「一伯公」こと松平忠直です。松平忠直は、徳川家康の孫として生まれ、越前福井68万石の2代藩主として、大坂夏の陣では幸村を討ち取り、大坂城に一番乗りを果たすなど大変な活躍をみせた人物です。このような輝かしい経歴をもちながら、幕府との軋轢から29歳の若さで藩主の地位を追われ、大分(大分市萩原)へ移されました。その後、大分市津守に移り、神仏への帰依から、周辺の寺社を再建するなどし、地域の人々に親しまれ、自らの生活や家族の安泰を第一に考えた余生をおくっていたようです。

本特集展示は、3回にわけて、熊野神社に奉納された一伯公ゆかりの遺品などから、生前の一伯公の勇姿や足跡を紹介します。

【第1回展示】



大坂の陣で使用したとされる鐘

【第2回展示】



葵紋入りの鏡



大坂の陣で使用したとされる兜巻



くさのこんげんえんぎえき世 熊野権現縁起絵巻[大分市指定有形文化財]

※上記の資料は熊野神社所蔵/当館寄託

利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)
 ■休館日 月曜日 但し祝日の場合は開館
 また第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
 祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
 年末年始 12月28日～1月4日

■観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
 中学生以下 無料 ※団体は20名以上
 ※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
 ◎入館時に受付で手帳を提示してください。

■交通機関 ・JR久大本線 豊後国分駅下車 徒歩2分
 ・大分自動車道 大分I.C.・光吉I.C.よりともに約15分

ふれあい歴史体験講座

■定員 各回70名程度(先着順)
 ■時間 午前の部 9時30分～(約2時間)
 午後の部 14時00分～(約2時間)



	実施日	内容	材料費	受付開始日
第6回	7月23日(土)	織物作り	200円	7月3日(日)
第7回	8月20日(土)	粘土はにわ作り	230円	8月3日(水)
第8回	8月27日(土)	土面作り	140円	8月17日(水)
第9回	9月3日(土)	土の鈴作り	60円	8月17日(水)
第10回	9月17日(土)	籐芯かご編み	430円	9月3日(土)
第11回	10月22日(土)	土偶作り	180円	10月3日(月)
第12回	11月26日(土)	粘土はにわ作り	230円	11月3日(木)
第13回	12月10日(土)	和風作り	220円	11月17日(木)
第14回	1月21日(土)	管玉・丸玉作り	270円	1月5日(木)
第15回	2月4日(土)	折り紙雛作り	300円	1月17日(火)

■応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
 (大分市歴史資料館:097-549-0880)

勾玉作り教室(元祖色付け勾玉)

■内容 時間内であればいくつでも勾玉を作ることができる一番人気の講座です。
 9色ある色付け勾玉をすべてそろえると勾玉作り名人に認定されます。

■実施日 第1回 7月30日(土) 9時～11時と13時～15時
 第2回 11月19日(土) ※時間内に随時受け付けます。
 (制作時間:1時間30分程度)

■材料費 1個 250円
 ■準備物 マスク・ぞうきんまたは古タオル・ビニール袋(着色用2枚)・ビニール袋(粉入れ用1枚)

テーマ展示解説講座

■内容 講座室でテーマ展示Ⅱ「いにしへの美—館蔵古美術—」について、スライドなどで解説した後、展示会場を案内します。

■日時 8月7日(日) 14時～15時30分

■参加費 無料 ※事前の申し込みは必要ありません。

★上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

発行日:平成28年7月23日

発行:大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 Tel 097-549-0880 Fax 097-549-5766

※大分市ホームページの「観光・魅力>歴史・文化財>歴史・文化を学ぶ>大分市歴史資料館」も併せてご覧ください。

(http://www.city.oita.oita.jp/)